



令和4年9月30日(金)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃二

開四小だより

10月号

子供と一緒に考える、デジタル・シティズンシップ教育

校長 河崎 晃二

小学校から高等学校まで一人一台端末の時代になり、今「デジタル・シティズンシップ教育」が注目されています。「シティズンシップ」とは、この世界を生きる“市民”の一人として、どのような資質・能力が必要か、どのように振る舞うことが“善い”ことなのかを考えることです。ですから、デジタルツールを用いて責任ある市民として社会に参加するための知識や能力がデジタル・シティズンシップであり、それを学ぶのがデジタル・シティズンシップ教育です。

これは、大人も子供も区別なく全ての人にとって必要なことです。その上で、デジタル社会や将来の Society 5.0 に対応した知識とスキルが必要になってきます。

スマホゲームの課金をやめられない。フィッシング詐欺にだまされる。迷惑行為を SNS に投稿する。フィルターバブル（各種のクラウドサービスがユーザーの行動履歴を分析し、ユーザーが見たいと思う情報だけを提供することにより、ほかの情報や考え方、価値観に触れなくなる）の中で偏った思考に陥る。ネット上での誹謗（ひぼう）中傷やヘイトスピーチがなくなる。などの問題が数多く存在しています。

デジタル・シティズンシップ教育では、こうしたトラブルや失敗が起こることを前提として、その解決方法を自分で考えられる力を養うことを目指しています。つまり、子供たちの心身に危険が及ぶような場合を除き、失敗もスキルアップの機会として生かしていくことです。社会でさまざまな問題が起こると同様に、学校でもデジタル機器やネットに関連したトラブルは必ず起こります。

ところが、今の日本では、無謬（むびゆう）性を求めて失敗を許さない傾向があります。いかなるトラブルも許さない姿勢は、トラブルが発生しても隠す方向に進み、肝心の問題を解決できなくなります。失敗しないための教育だけでなく、失敗したときにどう対応するのかを考えることがとても重要です。

ネット利用の社会的な影響、フィッシング詐欺、フェイクニュース、フィルターバブルといった問題を自分の力で解決するには、ベースとなるインターネット接続の仕組みや AI の働きといった ICT に関する知識も欠かせません。世の中には、知らなかったでは済まされないことや、知っていれば危険を避けられたということがたくさんあります。

デジタル・シティズンシップ教育でスキルや行動規範、思考ルーティンを養うことと、こうしたベースとなる ICT 等の幅広い知識を身に付けることはセットで進めていくことが大切です。ぜひ、ご家庭でも子供と一緒に考えてみてください。